

標準委員会 リスク専門部会 津波PSA分科会
第6回津波PSA分科会議事録

1. 日 時 2011年8月1日（月） 13:30～18:30

2. 場 所 （社）日本原子力技術協会 C,D会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員）山口主査（阪大）、蝦沢副主査(JNES)、桐本幹事（電中研）、倉本委員（NEL）、黒岩委員（MHI）、佐竹委員（東大）、杉野委員（JNES）、鈴木委員（原技協）、竹山委員（中電）、中井委員（JAEA）、成宮委員（関電）、藤本委員（JNES）、松山委員（電中研）、美原委員（鹿島建設）、秋山委員（CTC）、木下委員（NISA）、喜多委員（TEPSYS）（17名）

（欠席委員）平野委員（東京都市大）、守屋委員（日立GE）（2名）

（常時参加者）宮本（四電）、坂田（GIS）、佐竹（原技協）、廣川（TEPSYS）、西尾（JNES）、安田（関電）（6名）

（傍聴者）猪野（東芝）、長谷川（MHI）、太田（電発）、森本（北陸）、前原（関電）岩田（東電）、（6名）

（敬称略）

4. 配付資料

- RK2SC 6-1 第5回津波PSA分科会議事録（案）
- RK2SC 6-2 津波PRAコメント及び対応方針整理表
- RK2SC 6-3 津波PRA実施基準案
- RK2SC 6-4-1 4章 評価基準 本文案
- RK2SC 6-4-2 【附属書A（規定）】津波PRAの妥当性を確保するための方策
- RK2SC 6-4-3 【解説】津波PRAの妥当性確保のための具体的な方策に関する留意事項
- RK2SC 6-4-4 6章 事故シナリオの同定 本文案
- RK2SC 6-4-5 まえがき案
- RK2SC 6-4-6 9章 事故シーケンスの評価 本文案
- RK2SC 6-4-7 7章 津波ハザード 本文案
- RK2SC 6-4-7-1 8章 建屋・機器フラジリティ評価 本文案
- RK2SC 6-4-7-2 【附属書1（規定）】津波の波力に対する減失的応答の評価方法
- RK2SC 6-4-7-3 【附属書2（規定）】海底砂移動に対する現実的応答の評価方法
- RK2SC 6-4-7-4 【附属書2（参考）】一般的な不確実さ要因
- RK2SC 6-4-7-5 【附属書3（参考）】シビアアクシデント対策に基づく浸水対策の例
- RK2SC 6-4-7-6 【附属書4（参考）】不確実な解析手法の選定
- RK2SC 6-4-7-7 【附属書5（参考）】漂流物衝突及び洗掘に対する現実的応答の評価方法
- RK2SC 6-4-7-8 【附属書1（参考）】評価対象物と配置状況の例
- RK2SC 6-4-7-9 【附属書6（参考）】津波の陸上遡上を考慮したフラジリティ曲線の算定例
- RK2SC 6-4-8 【附属書E（規定）】内部溢水の影響を受ける区画の同定
- RK2SC 6-5-1 東海・東南海・南海地震の発生特性による広域津波の変化
- RK2SC 6-5-2 Amplification of tsunami heights by delayed rupture of great earthquakes along the Nankai trough
- RK2SC 6-5-3 南海トラフの地震発生の連動性が地域別津波ハザードに及ぼす影響

参考資料：

- ・参考 1 第 5 回津波 PSA 分科会議事メモ（案）
- ・参考 2 日本における P S A M への取組み
- ・参考 3 リスク関連標準共通用語集（仮称）の作成について

5. 議事内容

議事に先立ち、開始時点で委員 18 名中 17 名が出席しており、分科会成立に必要な定足数（12 名以上）を満足している旨が報告された。

（1）議事録確認

前回議事録について、資料 RK2SC 6-1 に基づいて、桐本幹事から説明があった。議事録については概ね了承されたが、以下の 1 点を修正し最終版とすることとなった。

- ・3 頁（9）：「JNES」を「各委員の成果を用いて」に修文

（2）標準案へのコメント等について

標準案に対するコメント及びその対応方針について、資料 RK2SC 6-2 に基づいて、桐本幹事から説明があった。本コメントを踏まえ、各委員が修正案を持ち寄ったことが紹介された。また、「PSA」と「PRA」の違いについてリスク戦略タスクで議論した結果を反映して、用語及び定義に「PSA」と「PRA」を追加したことが紹介された。

（3）標準案の検討について

① まえがきについて

題記について、資料 RK2SC 6-4-5 に基づいて、山口主査から説明があり、各委員からコメントがあれば主査に提示することとなった。

② 4 章 評価手順について

題記について、資料 RK2SC 6-4-1～4-3 に基づいて、藤本委員から説明があった。下記について、本文等を修正することとなった。

- ・解説「津波 PRA の妥当性確保のための留意事項」は、例示であるので、附属書 A の参考とすることとなった。

③ 5 章 プラント構成、特性及びサイト状況の調査について

題記について、資料 RK2SC 6-3 9 頁～12 頁に基づいて、成宮委員から説明があった。主な議論は以下のとおり。

- ・津波でのウォークダウンについては、敷地外も調査することが必要があるのでは。航空写真等の書類で判断可能と思われる。

④ 6章 事故シナリオの同定について

題記について、資料 RK2SC 6-4-4 に基づいて、黒岩委員から新たに多数基立地サイトにおける事故シナリオの同定の際の留意事項を記載したとの説明があった。下記について、本文等を修正することとなった。

- ・漂流物への評価はフラジリティ評価で、その他の事項は解説に記載することとなった。
- ・機器損傷モードと事故シナリオを分割して記載することとなった。

⑤ 7章 津波ハザードについて

題記について、資料 RK2SC 6-4-7 に基づいて、松山委員から説明があった。下記について、本文等を修正することとなった。

- ・南海トラフ等の評価モデル例については、今後見直しも想定されるため、データ集（別冊）とする方向で調整することとなった。

⑥ 8章 フラジリティ評価について

題記について、資料 RK2SC 6-4-7-1～7-9 に基づいて、美原委員から説明があった。下記について、本文等を修正することとなった。

- ・漂流物の衝突の評価については、条件付きの適用例であるので、参考資料という形で整理することとなった。

⑦ 9章 事故シーケンス評価について

題記について、資料 RK2SC 6-4-6 に基づいて、倉本委員及び喜多委員から説明があった。下記について、本文等を修正することとなった。

- ・津波特有のイベントツリー、フォルトツリーの記載を追加すること、また、津波による起因事象を整理して記載することとなった。

(4) スケジュール及びその他事項について

今後のスケジュールについて、資料 RK2SC 6-6 に基づいて、桐本委員から説明があった。8月8日（月）のリスク専門部会では本文・附属書は全て準備し、解説については目次で見せることとしたため、8月3日午後に標準案等のすり合わせ会を実施することとなった。

(5) 今後の予定

第7回 8月10日(水)午後、(社)日本原子力技術協会 会議室

以 上